

日本原子力学会「二相流データベースの整備(更新)・詳細評価」研究専門委員会
第2回委員会(幹事会)議事録

1. 日時

平成 22 年 1 月 29 日(金) 14:00~17:00

2. 場所

工学院大学新宿校舎27階セミナー室(2710)

3. 参加者

大竹主査、堀田委員、工藤委員、秋葉・池野幹事

4. 概要

平成 21 年度本委員会活動のレビューとして、平成 15 年度データベースの反省点を振り返り、今後の活動方針と計画を議論した。最新の知見を反映するには不特定多数に修正される仕組みがあり得るが、情報の信頼性と質の高さを維持するためには有識者によるレビューは不可欠である。よって、本委員会の次年度活動において、有識者の協力のもと論文レビューを行いデータベースの初回更新を行なうこととした。

5. 議事内容

5-1 今年度活動のレビュー

次年度活動の課題を明確にするため前身の“二相流データベースの評価・整備”研究専門委員会(以下、必要に応じて“前専門委員会”)という)が報告した平成 15 年度データベースの反省点を検討したが、以下の観点により、当該データベースは原子力学会の専門委員会が成し得る限りの努力を払った成果であると考えられた。

- ・ 平成 15 年度データベースを評価するため、まずその作成経緯を確認したところ、平成 14 年度委員会では、基礎式や構成式等の解析コードの解析スケールで物理量を整理したが、モデル定数のように直接的に計測できない量が混在してしまうため、平成 15 年度委員会では計測の視点から物理量を整理しなおしており、これが最終案となっていた。
- ・ さらに、引用する論文の著作権等を考慮すれば、グラフのデジタイズや無次元数の算出など、論文に書かれている以上の情報をデータベースに加える作業は好ましくない、との判断がなされており、本委員会であら

ためてデータベースの様式を大きく変更することまで取組むのは必ずしも合理的ではない。

- またデータベースの更新に関しては、継続的に更新される要素は必要であるが、不特定多数の手によって書き込み更新できるようなシステムにしてしまうと、学会の専門委員会が推奨したという付加価値がなくなってしまい、一般的な論文検索データベースに対する優位性はなくなる。
- この点で、データベースの質を維持するためには、有識者による論文レビューと更新が不可欠となるが、その継続を多忙な有識者に期待することは難しく、有識者の指導のもと学生や若い技術者や研究者が行なうよう伝える仕組みが重要である。
- 核燃料セミナーや炉物理セミナーのように、スポンサーが付き、定期的に安定して開催できるワーキンググループがあれば、論文レビューの研究会を行なうことは可能であるが、現状の熱流動部会にはそうしたワーキンググループは存在しない。
- よって、当時の必要性に応じて召集された前専門委員会という有識者の組織において論文レビューを行い、その結果をまとめてデータベースとして公開した当時の方法は妥当だったと考えられる。

5-2 今後の活動方針について

今年度末に活動を終了することを含め、今後の活動方針と計画について検討した結果、これまでの活動においてはデータベースの維持・更新の方法論については議論したものの、その議論の成果が具体的な形になっていない。よって、委員会を次年度一年間延長し、有識者によるレビューを年4回程度の頻度で行い、かつその成果として平成 15 年度データベースの初回更新を実施することとした。こうした次年度活動を円滑にスタートさせるため、以下の準備を行なうこととした。

- 有識者の協力を得るための準備として、平成15年度データベースに対するアンケート(熱流動部会対象)を行なうとともに、次年度レビュー作業の作業内容およびレビュー範囲を具体的に示した協力依頼文を作成して、あらためて協力を請うこととする。
- 平成 20 年度当初に想定した委員候補からの内諾状況を鑑み、あらためて協力依頼する委員候補について検討し、添付 1 の委員候補に協力依頼することとした。
- 年度初期は、大学の研究室に配属された学生および企業に就職した技術者が学術論文に親しむ最初の機会でもあるため、この機会を利用した

研究者育成と効率的かつ均質な論文レビューを実現するため、そのポイントをまとめたレビューマニュアルを委員会として準備することとした。

- 平成 22 年度第一回委員会は 4 月 19 日の週に予定し、その後約 3 ヶ月毎に委員会を開催し、委員からの論文レビュー状況の報告、データベース更新の議論を行なう計画である。
- 4 月 19 日の週に開催予定の第一回委員会に間に合うように準備作業を完了する。各作業の内容及び分担は以下のとおりである。

(熱流動部会対象のアンケート)

データベースの活用状況および要望などについて池野幹事がアンケート内容を作成、主査・幹事および幹部委員にて確認し、結果を大竹主査が報告書に添付して公開する。なお、アンケートの配信・集計は秋葉幹事をお願いする(2 月中旬に配信、3 月中頃に集計して報告書に盛り込む)。

(協力依頼文)

今後の活動計画を具体的に示した内容を盛り込み、池野幹事が案を作成、主査・幹事および幹部委員にて確認し、大竹主査が報告書に添付して公開する。なお、委員候補への配信(大竹主査)は 2 月中旬を目標にする(第一回委員会案内を 3 月中頃に出すとして、できればそれまでに内諾受けたい)。

(レビューマニュアル)

堀田委員が案を作成、主査・幹事および幹部委員にて確認し、大竹主査が報告書とともに公開する。

(年度末報告書)

期限は明確ではないが委員会延長の場合にも事務局への報告書提出が必要である。大竹主査が、今年度活動のレビューおよび今後の活動方針について今年度委員会で得られた見解をまとめ、協力依頼文案、アンケート結果、レビューマニュアルを添付して作成する。

以上